臨床報告

月経痛, 月経周期異常に対する気剤による治療の試み

—— 5 症例の経験から ——

木村 容子 佐藤 弘

東京女子医科大学附属東洋医学研究所, 東京, 〒163-0804 新宿区西新宿2-4-1

Treatment of Menstrual Problems with Ki-related Prescriptions

— Lessons from 5 Cases —

Yoko KIMURA Hiroshi SATO

Institute of Oriental Medicine, Tokyo Women's Medical University, School of Medicine, 2-4-1 Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-0804, Japan

Abstract

We report on five patients with menstrual pain and/or other disorders, whose symptoms improved when treated with Ki-related prescriptions. Hangekobokuto improved severe epigastralgia and menstrual pain in Case 1. Saibokuto showed improvement of menstrual disorders and pain in Case 2, while Hangekobokuto also ameliorated menstrual pain in Case 3. The treatments were based on patient Ki stagnation, although the symptoms of Ketsu stagnation were also observed in these cases. In Case 4, the patient's menstrual pain and disorders were improved by changing her prescription from Kamishoyosan, to Keishikaryukotsuboreito. In Case 5, a menstrual period of more than 40 days became a regular rhythm of 30 days, while treating the patient's chief complaint of urticaria, with Keishikaryukotsuboreito. Symptoms of Ketsu stagnation were not apparent in Cases 4 and 5. We prescribed Keishikaryukotsuboreito—a prescription for Ki regurgitation—because of suggestive symptoms of nightmare, as well as palpitation in the abdomen.

Menstrual problems are often related to Ketsu abnormalities according to Kampo medicine literature. However, symptoms related to Ki regurgitation and Ki stagnation are also observed in women with menstrual problems who are under stress. Therefore, it is important to know that there have been cases, such as ours, of menstrual problems successfully treated with Ki-related prescriptions.

Key words: Ki stagnation, Ki regurgitation, Hangekobokuto, Saibokuto, Keishikaryukotsuboreito, menstrual problems, menstrual pain, menstrual disorder

要旨

月経痛, 月経周期異常に対し, 気剤単独で, 奏功した 5 例を報告した。症例 1 では, 激しい心窩部痛及び月経痛が半夏厚朴湯で改善, 症例 2 では, 柴朴湯で月経不順及び月経痛が軽快, 症例 3 では, 半夏厚朴湯で月経痛が軽減した。瘀血の所見を認めたが, 気鬱の症状に基づいて処方を選択した。症例 4 では, 加味逍遙散から桂枝加竜骨牡蛎湯に変方して月経痛及び月経不順が改善, 症例 5 では, 主訴の蕁麻疹を桂枝加竜骨牡蛎湯加味方で治療中, 月経周期が 40 日以上から 30 日に改善した。後者 2 例では, 明らかな瘀血症候を認めなかった。腹部動悸亢進や怖い夢, いやな夢がみられたため, 桂枝加竜骨牡蛎湯を選択した。月経異常は, 漢方医学的には, 特に「血」に関連する病態が多いとされる。しかし, 5 症例の経験から, ストレス状況で発症した月経障害に対し, 瘀血の症候を認めても, 気鬱や気逆など「気」の関与を考慮し, 気剤が有効な症例もあることが示唆された。

キーワード: 気鬱, 気逆, 半夏厚朴湯, 柴朴湯, 桂枝加竜骨牡蛎湯, 月経異常, 月経痛, 月経不順

はじめに

漢方医学では, 病態把握の一つの手段として, 気血水の概念がある。「気」は生命活動を営むエネルギー, 「血」は血液, 「水」はリンパ液などの体液を意味する。この 3 要素が過不足なく, 相互に調和が

とれ, 順調に体を流れている状態を「健康」と考える。月経の症状は, 特に「血」に関連する病態が多いとされている¹⁾。しかし, これらの要素は互いに影響しあっており, いったんそのバランスが崩れたり, 滞りが生ずると様々な変調が体に現れる。この

ため、「気」の異常も月経関連症状に関与することもある。今回は、気の鬱滞（気鬱）や気の上衝（気逆）に着目し、半夏厚朴湯（柴朴湯）や桂枝加竜骨牡蛎湯を用いて有効であった症例を経験したので報告する。半夏厚朴湯や桂枝加竜骨牡蛎湯を月経異常に使用する際の目標について、加味逍遙散との比較なども含めて検討した。

症例報告

症例1：半夏厚朴湯で激しい心窩部痛および月経痛が改善した症例 16歳，高校生

主 訴：# 1 激しい心窩部痛，# 2 月経痛，# 3 嘔気，嘔吐

既往歴：特になし。

現病歴：3～4年前からストレスにより，また，月経前・中に激しい心窩部痛が出現するようになり，時に嘔気・嘔吐を伴うこともあった。近医で加療受けるも症状はあまり改善せず，漢方治療を希望して，X年1月8日に当研究所を受診。

現 症：167cm，58kg，血圧114/64mmHg，脈拍64/分（虚実間），舌淡紅色，舌下静脈怒張あり。目のくまや，顔面の色素沈着なし。腹力中等度で，心下痞鞭あり，左臍傍圧痛を認める。

経 過：主訴に加えて，下痢しやすい，胸焼けなどの消化器症状を認め，さらに，下肢の冷えや，イライラ，不安などの精神症状もみられた。このため，半夏厚朴湯エキス7.5g/dayを処方したところ，内服2週後には，「半夏厚朴湯を服用すると調子がいい」と，心窩部痛及び月経痛は軽減し，4週後には，心窩部痛はほとんどみられなくなった。4週後より，半夏瀉心湯エキス7.5g/dayに変更したところ，下痢になったため，数日服用後に半夏厚朴湯エキスに戻し，以後，症状は改善した。しかし，瘀血症状の明らかな改善は認められない。

症例2：柴朴湯で月経不順および月経痛が改善した症例 23歳，大学生

主 訴：# 1 月経不順，# 2 月経痛

既往歴：21歳 潰瘍性大腸炎

現病歴：以前より月経不順があり，一年前から海外に留学した頃から，40～60日月経が遅れることがあった。帰国後数カ月経つも月経不順が続くため，X年10月29日来院。

初診時自覚症状：便秘（市販薬で腹痛），腹満，

ガス貯留，全身倦怠感，過食，冷え症（手足），不安感，無気力，歯ぎしり，胃の不快感，げっぷ，肩こり

初診時身体所見：167cm，51kg，血圧104/58mmHg，脈拍62/分（虚），目周囲のくまあり，肌膚甲錯なし。舌に厚い白苔を認め，舌下静脈の怒張なし。腹力中等度で，右胸脇苦満あり，心窩部振水音あり，臍上悸あり，左臍傍圧痛を認める。

経 過：海外留学を契機に月経不順が一層増悪し，同時に，不安感，無気力，腹満，ガス貯留などの症状を認めたため，ストレスによる気鬱が月経不順に関与していると考え，柴朴湯エキス7.5g/dayを処方した。内服2週後には，月経があり，以後，同処方の継続服用により，約30日周期で月経が定期的にくるようになり，さらに，月経痛も軽快している。現在，再び海外留学中であり，今回の海外滞在では月経は順調にきている。月経関連症状の改善をみるも，瘀血徴候の明らかな改善はなかった。

症例3：半夏厚朴湯で下腹部痛および月経痛が改善した症例 36歳，営業職

主 訴：# 1 歯から心臓がしめつけられる，# 2 左下腹部痛，# 3 月経痛

既往歴：4歳 虫垂炎手術

現病歴：30歳頃から多忙時に，胸がしめつけられたり，声が出なくなることがあった。X-1年12月に死産の手術をし，以後，気分のムラがあり，来院1カ月前からは，特に気分の落ち込みがひどくなり，さらに，歯から心臓がしめつけられる感じが出現した。月経痛も増悪し，さらにシクシクとした左下腹部を中心とした持続痛を自覚するようになったため，X年6月8日来院。

初診時自覚症状：全身倦怠感，下腿浮腫，歯ぎしり，肩こり

初診時身体所見：158cm，62kg，血圧126/70mmHg，脈拍74/分（虚実間），舌は乾燥した薄い黄苔あり。舌下静脈の怒張なし。目のくまや顔面の色素沈着なし。腹力中等度で，左臍傍および下腹部圧痛を認める。

経 過：しめつけられる感じ，気分の落ち込みなどの症状から，気鬱がベースにあると考え，半夏厚朴湯エキス7.5g/dayを処方した。内服2週後には，歯から心臓のしめつけられ感が軽減し，さらに，左

表1 治療前後における月経痛，月経周期異常の改善程度

	月経関連異常	治療前	治療後	瘀血所見の変化	処 方
症例1 16歳 高校生	月経痛	4	0-1	舌下静脈怒張,左臍傍圧痛は治療後,明かな変化なし	半夏厚朴湯エキス
症例2 23歳 大学生	月経痛	3	0	目周囲のくま,左臍傍圧痛は治療後,明かな変化なし	柴朴湯エキス
	月経周期異常	40-60日	約30日		
症例3 36歳 営業職	月経痛	3	1	左臍傍・下腹部圧痛が治療後軽減	半夏厚朴湯エキス
症例4 29歳 派遣社員	月経痛	3	0-1	—	桂枝加竜骨牡蛎湯エキス
	月経周期異常	40-50日	28日		
症例5 23歳 大学生	月経周期異常	40日以上	30日	—	桂枝加竜骨牡蛎湯（煎じ）

(注)月経痛の程度は、0～4(0:なし、1:わずかに、2:少し、3:かなり、4:非常に)の5段階評価

下腹部痛はほとんど認められなくなった。また、「死産以降、帯下が多く、匂いが気になっていたが、帯下が少なくなった」と言っており、月経痛も以前の自制可能な程度にまで軽減した。来院4カ月後の現在は、心臓のしめつけられる感じおよび下腹部痛が全く認められなくなり、腹診上、左臍傍および下腹部の圧痛も軽減しているため、半夏厚朴湯エキスを5g/dayに減量して継続服用している。

症例4：桂枝加竜骨牡蛎湯で月経痛および月経不順が改善した症例 29歳，派遣社員

主 訴：＃1月経痛，＃2月経不順
既往歴：特になし

現病歴：X－2年頃から転職によりストレスを感じていた。以前よりあった月経痛，月経不順が，X－1年6月頃から増悪した。同年7月に会社を退職。今回，月経痛・不順を主訴として，全身状態を改善したいということでX年9月3日に来院。

初診時自覚症状：冷え症（手足），下腿浮腫，全身倦怠感，イライラ，肩こり，胃もたれ，口唇乾燥

初診時身体所見：168cm，52kg，血圧108/60mmHg，脈拍68/分（弱・細），舌に薄い白苔あり。舌下静脈の怒張なし。顔面の色素沈着なし。腹力やや軟弱，右胸脇苦満あり，著明な臍上悸あり。

経 過：イライラ，右胸脇苦満などの肝鬱症状，胃もたれ，全身倦怠感など脾虚による症状，口唇乾燥など血虚による症状が認められた。肝気鬱滯，血虚，脾虚が認められたため，加味逍遙散エキス7.5g

/dayを処方したところ，服用1週間後に「お腹が張る，湿疹が出る」という訴えがあったため，加味逍遙散を中止した。加味逍遙散が服用できない程の虚証であり，さらに，詳しく問診をすると，動悸，驚きやすい，眠りが浅い，怖い夢を見るなどの症状を認め，著明な臍上悸があることから，竜骨，牡蛎の適応証と考え，桂枝加竜骨牡蛎湯エキス7.5g/dayに変方した。服用3週後の診察時には，「味が美味しい。体が軽くなった。」といい，それ以後，よく眠れるようになり，また，月経がほぼ28日周期で来るようになった。さらに，月経痛も軽減し，これまで鎮痛剤を服用していたが，今はほとんど必要がなくなった。来院1年後の現在も，同処方を継続服用している。

症例5：桂枝加竜骨牡蛎湯で月経周期が40日以上から30日に改善した症例 23歳，大学生

主 訴：＃1蕁麻疹，＃2寝つきが悪く，眠りが浅い，＃3めまい

既往歴：特になし

現病歴：X年4月より，蕁麻疹が出現し，皮膚科を受診して抗ヒスタミン剤およびステロイド外用剤を使用するも症状が治まらないため，同年6月24日に受診。

初診時自覚所見：冷え症（手足），易疲労感，食後嗜眠，肩・頸のこり

初診時身体所見：156cm，44kg，血圧92/68mmHg，脈拍80/分（虚），舌淡紅色，舌下静脈の怒張なし。

肌膚甲錯や色素沈着なし。腹力やや軟弱、臍上悸、腹皮拘急を認める。

経過：易疲労感、食後嗜眠、冷え症などから虚証の傾向があり、また、膨疹を表証としての自汗の変形ととらえ、桂枝湯証と考えた。さらに、就眠障害および中途覚醒があり、また、いやな夢をみるという、精神症状もみられたため、竜骨・牡蛎を加味して、桂枝加竜骨牡蛎湯の煎じ薬を処方した。2週間後の診察では、掻痒感が強いいため、茵陳五苓散を合方したところ、蕁麻疹は軽快傾向になった。このため、診察6週目に、桂枝加竜骨牡蛎湯のみの処方に戻した。以後、中途覚醒や、夢も少なくなり、さらに、3カ月後の診察時には、「これまで40日以上、の月経周期が30日で定期的にくるようになった」と喜んでいて。来院15カ月後の現在も、桂枝加竜骨牡蛎湯加味方で治療は継続中である。

各症例における月経痛と月経周期異常の治療前後の変化については表1にまとめた。月経痛の程度は、患者自身による自覚症状の評価システム（東洋医学研究支援システム；Tokyo women's medical university Oriental Medicine Research Active Support System：TOMRASS）²⁾を利用して、受診時ごとに0～4（0：なし、1：わずかに、2：少し、3：かなり、4：非常に）までの5段階で患者自身が評価した。症例1から症例4の医療用漢方エキス製剤は全てツムラを用いた。症例5の桂枝加竜骨牡蛎湯は、桂枝・芍薬・大棗各4g、生姜1g、甘草2g、竜骨・牡蛎各3gとし、茵陳五苓散は茵陳蒿4g、沢瀉6g、猪苓・茯苓、白朮各4.5gで配合して煎じた。

考察

漢方医学には、「心身一如」という考え方がある。『千金方』において、「女人嗜欲多於丈夫 感病倍於男子 加以慈悲 愛憎 嫉妬 憂慮 染著堅牢 情不自抑 所以為病根深 療之難差」³⁾、すなわち、「女性は病気に対する感じ方が男性の倍ほど強く、慈悲、愛憎、嫉妬、憂慮の念が強く、感情を自分で抑えることができない、病根が深くなり、治療に骨がおれる」⁴⁾と記載されているように、男性に比べ、特に女性の疾患の場合には、感情や心の関与が強いと考えられている。また、後山⁵⁾も、機能性月経困難症の漢方医学的解釈として、「瘀血」以外にも、「氣滯」「氣逆」などの気の巡行の抑制、阻害の関与に触れており、さらに、気の異常の慢性化は「瘀血」

を形成し、現代社会での日常生活における精神的ストレスからも「瘀血」を助長するとして、月経困難症における順気の大切さを主張している。石野⁶⁾は、心理的因子による月経不順の治療として、半夏厚朴湯と桂枝加竜骨牡蛎湯などの処方挙げている。

しかしながら、これまでの症例報告は、駆瘀血剤に気剤を併用して月経異常が改善したものも多く^{7,8)}、松田⁹⁾による「氣鬱による無月経に半夏厚朴湯加川芎」のような気剤中心の治療報告は少ない。このため、今回、いわゆる駆瘀血剤の併用を行わず、半夏厚朴湯、柴朴湯、桂枝加竜骨牡蛎湯により、月経痛や月経周期が改善した症例を報告した。

半夏厚朴湯（半夏、茯苓、厚朴、蘇葉、生姜）の原典は、『金匱要略』婦人雜病論「婦人咽中如有炙臑半夏厚朴湯主之」¹⁰⁾であり、氣鬱の代表処方の一つである。症例1は試験を始めとする学業において、症例2は死産のエピソード、そして、症例3は海外留学によって、いずれも強いストレスを受けており、そのために気の鬱滞が生じたと考えられた。症例1については、当初、激しい心窩部痛および胸やけを伴ったこともあり、半夏瀉心湯の投与を考慮した。このため、半夏厚朴湯から半夏瀉心湯に変方したが、下痢などが出現して逆に調子が悪いということで再び、半夏厚朴湯に戻した経緯がある。和田東郭は、『蕉窓雜話』にて、「理氣湯を用いて経閉を通じさせること毎々あり。是上をすかせば下ゆるむをもってなり。」¹¹⁾と述べている。理氣湯は、半夏、茯苓、厚朴、桔梗、連翹、蘇子、橘皮、枳実から成っており、半夏厚朴湯と共通の構成生薬（半夏、茯苓、厚朴、蘇葉（理氣湯では蘇子））を多く含んでいる。この記載は、月経不順に対する半夏厚朴湯の応用を考える上で示唆に富むものである。

桂枝加竜骨牡蛎湯は、氣逆を改善する方剤の一つである。原典は、『金匱要略』血痺虚勞病篇「夫失精家 少腹弦急 陰頭寒 目眩髮落 脈極虚 衄遲 為清穀亡血。失精脈得諸衄動微緊。男子失精女子夢交 桂枝加竜骨牡蛎湯主之」¹²⁾であり、陰萎、早漏、夢精以外にも、神経症などに応用される¹³⁾。和久田叔虎の『腹證奇覽翼二編』では、「臍上中脘の辺に動気つよく、小腹に弓弦を張りたる如く引きはるものあり。常に衝逆目眩の患ありて、上實下虚、上熱下寒、脈虚衄なるもの、桂枝加竜骨牡蛎湯の証なり。（中略）按ずるに此の方に竜骨牡蛎の2味を加るは、

動気衝逆を鎮るのみにして、其餘皆桂枝湯本方の與るところ、陽を助けて榮衛を調え、衝気を平にして、気血相和して、諸証自から癒るもの。(中略)因て此方の用を弘るときは、特に失精家のみならず所謂虚勞鬱証、赤白濁、小兒の胎驚夜啼客忤驚癇の等、証に随て試効あり。・・・」¹⁴⁾と、桂枝加竜骨牡蛎湯の証として、臍動悸が強いことを挙げ、竜骨牡蛎は動悸衝逆を鎮めるために加えてあると解説している。基本は桂枝湯証であり、陽を助けて營衛を調え、衝気を平にして、気血を相和させる働きがある。また、失精家だけでなく、虚勞鬱症などに有効であると述べている。このように、桂枝加竜骨牡蛎湯を、原典に記載されている失精家に限らず、桂枝湯証に鎮驚作用のある竜骨、牡蛎が加わったものと考えたと応用範囲が広がると思われる。

症例4では、加味逍遙散が無効で、桂枝加竜骨牡蛎湯が有効であった月経痛、月経不順について報告した。イライラ、右胸脇苦満などの肝鬱症状、胃もたれ、全身倦怠感など脾虚による症状、口唇乾燥など血虚症状から、加味逍遙散を最初に処方した。しかし、全身倦怠感、冷え症などより虚証と考えられ、かつ2診目で、動悸、驚きやすい、眠りが浅い、怖い夢を見るなどの症状に着目し、腹診でも著明な臍上悸があったことから、桂枝加竜骨牡蛎湯に変方し、諸症状の改善をみた。

桂枝加竜骨牡蛎湯証を考える上で、腹証および不眠の特徴について触れたいと思う。

桂枝加竜骨牡蛎湯の腹証は、上述したように臍動悸が特徴の一つとして挙げられる。自験例においても腹部動悸を認めた。一方、逍遙散の腹証でも、目黒道琢は、『餐英館療治雑話』巻之下で、「腹形は、心下痞し、或は両脇下拘攣左脇尤甚、或は左に悸動あるを標的とす。」¹⁵⁾と、心下痞および胸脇苦満のほかに、動悸も標的として挙げている。しかしながら、有持桂里は、桂枝加竜骨牡蛎湯について、『校正方輿輦』巻之六で、「この病は、腹にて候うが第一捷徑(しょうけい)なり。凡そ臍上水分の地窄(くぼ)みて坑(あな)をなし或は臍下ぐさぐさしたる中に弦急を見わし、又臍辺の一種の動気あるべし。此の動は意を以て之を求めるときは言わずして自ら噓るべし。」¹⁶⁾と、桂枝加竜骨牡蛎湯証は、腹証が特徴的であり、さらに、動悸は自ずと明らかであると主張していることから、加味逍遙散証よりも動悸は著

明であると考えられる。

睡眠障害も、症例4および5で認められており、眠りが浅い、怖い夢やいやな夢をみるという特徴があった。桂枝加竜骨牡蛎湯は、原典に女性では「女子夢交」という夢に関する特徴的な記載があるが、これを「怖い夢」や「いやな夢」に転用した。実際、杵渕¹⁷⁾は、本処方を悪夢に使用すると解説しており、また、二宮¹⁸⁾はアトピー性皮膚炎の治療時に、怖い夢、追われる夢をみる患者に対して使用して有効であったと報告している。眠りが浅く、悪夢をみやすいことも桂枝加竜骨牡蛎湯の使用目標の一つとなると考えられる。

月経異常は、一般に瘀血がベースにあるといわれている¹⁾。今回は、半夏厚朴湯(加味方)が有効であった症例1～3では、瘀血徴候がみられた。症例1では舌下静脈怒張及び左臍傍圧痛、症例2では目周囲のくま及び左臍傍圧痛、症例3では左臍傍および下腹部圧痛が認められた。これらの瘀血の所見については、症例3の左臍傍および下腹部圧痛は軽快したが、その他の症例では治療後に明らかな消失は確認できなかった。一方、桂枝加竜骨牡蛎湯で改善した症例4と5では、身体所見上、明らかな瘀血徴候はみられなかった。吉益南涯の高弟である賀屋恭安が出版した『続医断』における「急逆」の病態の中で、「三物(気血水)皆急逆あり。然れども、必ず気をもって主となす。水血の急逆もまた氣に由らざるを得ず。」¹⁹⁾と記載しており、「血」「水」の病的状態も「氣」に由来すると主張している。すなわち、一見、血の異常と考えられる病態の背後に氣の異常が存在する可能性に言及している。すなわち、月経異常の治療でも、氣に対するアプローチが重要となるのである。香月牛山は、『牛山活套』で、「○婦人の病、外感内傷共に男子の病に異ならず。ただ月経あるを以て、其品種々に別あり。婦人の病を治せは、先ず月経ことを能く問て治を施すべきなり。○室女は其病多くは氣鬱より発すれば、鬱を開き氣を順(めぐら)すべし・・・」²⁰⁾と、女性では月経状態を聞くことが重要であり、特に、若い女性では、氣鬱が多いと述べている。今回報告した5症例は、1症例を除き10代～20代であり、特に若年女性の月経異常には、単に血からではなく、氣からのアプローチも考慮してよいと考えられた。以上より、ストレス状況で発症、増悪した月経障害の症例では、瘀血徴

候が明らかであっても、気の病態に対する治療が重要な場合があり、気剤単独でも有効な症例もあることが示唆された。

今回の臨床報告のうち、症例1については、第62回関東甲信越支部学術総会一般演題にて発表した。

謝辞：症例の考察において貴重なご意見を頂きました杵渕彰先生（当研究所非常勤講師，青山杵渕クリニック院長），稲木一元先生（当研究所非常勤講師，青山稲木クリニック院長）には，深甚なる感謝を捧げます。

参考文献

- 1) 石野尚吾：3 月経異常の漢方治療，産婦人科治療 **70**：767-771 (2005)
- 2) 木村容子，佐藤弘，新井信，飯山和郎，田中朱美：患者自身による自覚症状評価システムの臨床応用—診療情報のデータベース化—，日本東洋医学雑誌 **55**：337-342 (2004)
- 3) 孫思邈：卷第二婦人方上，宋版備急千金要方上：102オリエント出版社 (1989)
- 4) 石野尚吾：第14章更年期障害，女性の漢方：147-161 (2001)
- 5) 後山尚久：月経痛 2 機能性月経痛への対処法 3) 漢方療法，臨床婦人科産科 **59**：1005-1008 (2005)
- 6) 石野尚吾：第 4 章生理不順・無月経・やせ，女性の漢方：35-48 (2001)
- 7) 盛岡頼子，新井信，溝部宏毅：女子医大雑話(54) 月経不順の症例，漢方の臨床 **45**：213-218 (1998)
- 8) 田中栄一，中原健次，倉智博久：月経異常に対する漢方治療について—有効例と無効例の検討—，産婦人科漢方研究のあゆみ **19**：35-37 (2002)
- 9) 松田邦夫：12，産婦人科疾患，症例による漢方治療の実際：297-298，創元社 (1992)
- 10) 張仲景：元鄧珍本金匱要略，燎原，東京，3 - 6 a.
- 11) 和田東郭：蕉窓雜話五編，近世漢方医学書集成 **15**：468，名著出版 (1979)
- 12) 張仲景：元鄧珍本金匱要略，燎原，東京，1 -16a.
- 13) 江川充：桂枝加竜骨牡蠣湯，新版漢方医学 (第 2 版)：243-244，自然と科学社 (1999)
- 14) 和久田叔虎：桂枝加竜骨牡蠣湯證，『腹證奇覽翼二編』，近世漢方医学書集成 **84**：22-26，名著出版 (1982)
- 15) 目黒道琢：『餐英館療治雑話』卷之下，近世漢方医学書集成 **107**：323-328，名著出版 (1983)
- 16) 有持桂里：校正方輿輓卷之六，近世漢方医学書集成 **86**：44-45，名著出版 (1982)
- 17) 杵渕彰：最近の漢方治療と心身症精神科領域における漢方治療，心身医療 **10**：69-73 (1998)
- 18) 二宮文乃：皮膚科と心身症心理テスト，自律訓練法，漢方による AD の治療，MB Derma **58**：61-67 (2002)
- 19) 吉益南涯：続医断卷之上，近世漢方医学書集成 **37**：69-71，名著出版 (1980)
- 20) 香月牛山：牛山活套卷之下，近世漢方医学書集成 **61**：511，名著出版 (1981)